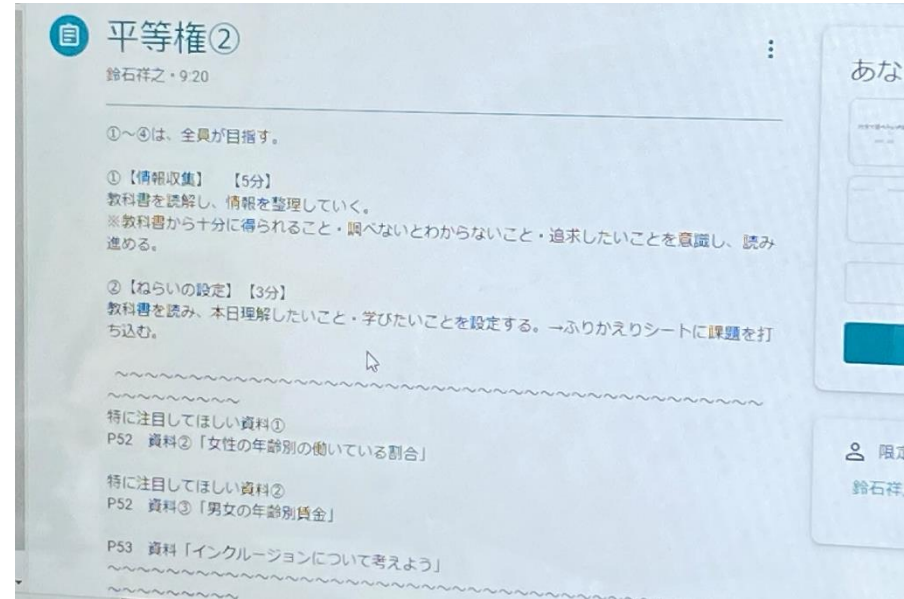
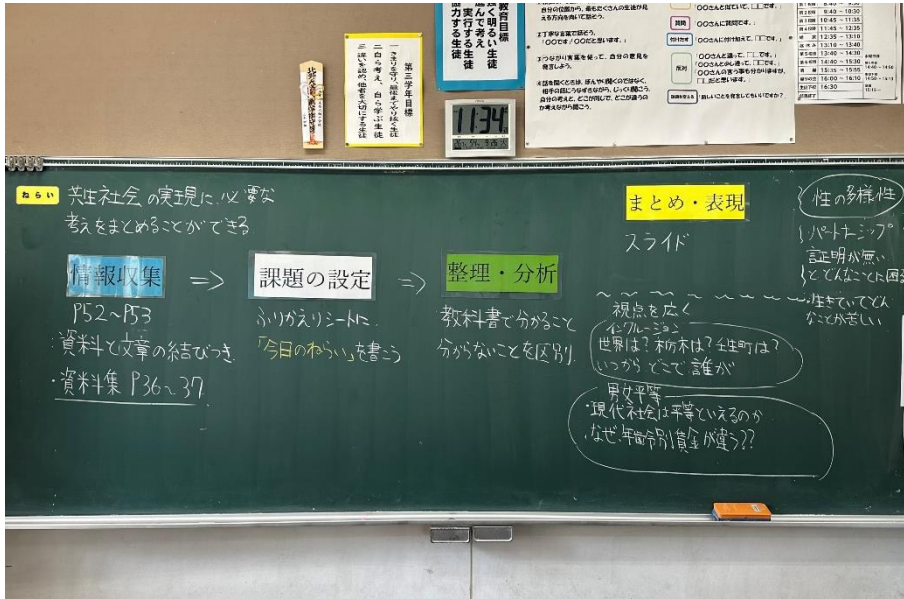


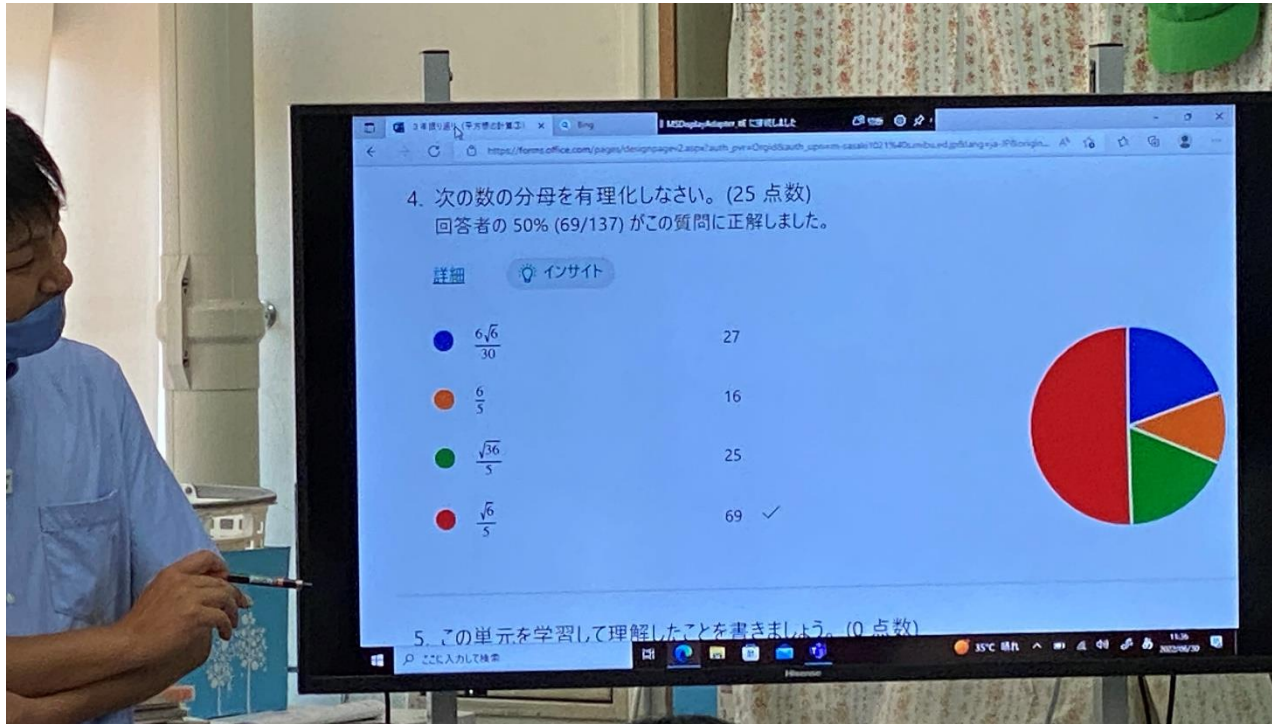
【取組内容①】個別最適な学びと協働的な学びを支える学習過程と学びの手引き



<中3 社会>

教科書の内容を教師が一斉に説明し板書する授業から、生徒が主体的に学びとる授業への転換を図っている。生徒が1人1人にあった方法やペースで主体的に学びを進められるよう、学習過程と学びの手引きを示している。これまでは指導案や教材研究で教師だけが持っていた情報を生徒と共有することで子に応じた学びが実現できる。その際、単元で習得すべき知識・技能や見方・考え方は、生徒の実態に合わせて教師から示している。

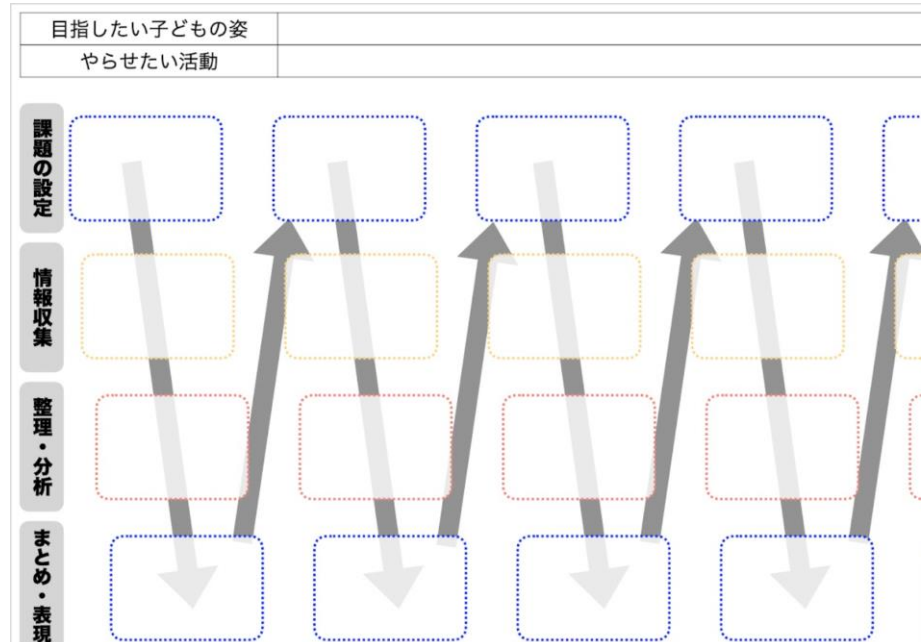
【取組内容③】 端末の持ち帰りによる家庭学習から，生徒の学習の理解度を把握して指導に生かす



<中3 数学>

学習内容の理解度を把握するため，家庭学習でアンケートフォームによる課題を出した。正答率が自動集計され，生徒の理解度を教師が一覧で把握できるため，到達度が低かった問題については次時の授業で改めて指導した。**家庭学習と授業をつなぐ活用**につながっている。

【取組内容④】 クラウドの活用を前提とした対話的・協働的な教員研修



出典 学校DX戦略アドバイザー 泰山裕 准教授のスライドより

< 教員研修 >

教員研修では、目指す授業と同じような形を先生たちにも体験してもらうため、クラウドの活用を前提として行っている。LDXのアドバイザー派遣で講師として招聘した泰山裕准教授のワークショップでは、探究的な学びを支える学習過程について、**クラウドを活用して教員相互の考えが参照できるような研修**を行った。